

高山赤十字病院 広報誌

Vol.49

平成30年
秋号

日赤たいむ



- 国際救援 バングラデシュ
- 平成30年7月豪雨被災地へ、こころのケア活動
- ふれあい看護体験 ●はなさと夏祭り
- 栄養課おすすめ!簡単レシピ ●新任医師の紹介

国際救援

①白子 順子医師・②馬場 淳看護師・

バングラデシュ 南部避難民救援事業

2017年8月以降、ミャンマー・ラカイン州で続く治安部隊と武装勢力の衝突で70万人以上もの人がバングラデシュに避難しています。避難民キャンプ地では安全な水や食料、生活用品などが不足している状態が続き、生活環境も悪化しています。

高山赤十字病院は日本赤十字社を通じ、国際赤十字・赤新月社連盟の要請を受け、医師2名、看護師1名を救援事業に派遣しました。

それぞれの活動を報告いたします。

①派遣期間:平成29年12月28日～平成30年1月25日

外国(支援を受ける人にとっての異国の地)で、外国人(避難先の国に居住していない人)を支援するということ

日赤医療チームの一員として約1ヶ月間現地で医療活動を行いました。チームは、バングラデシュ赤新月社医療スタッフ、現地難民スタッフとともに総勢70名を超えるメンバーで構成されています。活動は難民キャンプの中に作られた仮設診療所での診療と、そこにアクセスできない人たちのところへ歩いて回る巡回診療が主でした。



毎日200名を超える患者さんを診察し、疾患は上気道炎や下痢などの感染症が主で、日本では1999年以来報告がないといわれるジフテリアも流行していました。この疾患は致死率10%と言われ、すぐに抗毒素療法を行う必要があります。他にも、栄養失



調の子ども、ミャンマーで負った傷の後遺症を訴える患者さんや、家族を失った心の傷を抱えた人もたくさん見かけました。

難民の帰還のめどはたたず、医療ニーズは変わることなく、支援は継続されています。難民の人たちが一刻も早く平和な生活に戻れますことを祈ります。

白子 順子



バングラデシュにて

③白子隆志 医師が医療支援を行いました。

②派遣期間:平成30年2月16日～4月26日

継続した支援が必要という現状



この度、医療支援チームの看護師としてバングラデッシュ避難民救援活動に従事させて頂きました。診療所活動は日赤医療チーム、バングラデシュ赤新月社のスタッフ、そして避難民ボラ

ンティアという3者が協力しあう形で行われました。

私達日赤スタッフの任務はバングラデシュ赤新月社及び避難民ボランティアが自らの力で診療所を運営できるよう教育・指導を行うというものでした。実際の現

赤新月が象徴する「人道」という理念にあるのではないのかと思います。この言葉の周りに集まった仲間で、再び働けることを願いつつ、避難民問題のいち早い解決を祈りたいと思います。

馬場 淳



③派遣期間:平成30年6月9日～7月4日

限られた資源の中で医療を行うということ



フィンランドとノルウェー赤十字が中心となり、難民キャンプの隣に病院型ERU(テント野外病院)が展開されました。私は、そこで国際チームの外科医として活動しました。

現地の6月は雨季にあたり赴任後1週間は雨ばかりでした。小さなテントでの生活環境に加え当初外科医が一人体制だったため、身体的・精神的にも厳しい活動になりました。病棟回診・術後・退院指示、手術の合間に救急外来及び入院の対応に追われ、朝から夜までトランシーバーを手放すこと

ができませんでした。

手術は、膿瘍切開(うみ)、転落・暴力・交通事故等による外傷手術(骨折など)、腹膜炎手術など、3週間で約100



件実施しました。診断機器としては、X線と超音波検査に限られるため骨折・膿瘍以外の疾患では臨床所見で判断するしかありません。手術室には大量のハエが侵入するなど衛生環境は悪く、自家発電の照明、外科医一人での手術、限られた麻酔、限られた手術機器と診療材料などで手術を完結しなければなりませんでした。同じアジア

人として、現地スタッフや患者さんたちともどこか親近感が沸きました。いつもことながら、短期間の派遣ではあるがゆえに残してきた患者さんたちへの心残りを感じた派遣でした。一刻も早い避難民の安心安全な祖国への帰還を祈っております。

白子 隆志

平成30年7月豪雨災害被災地へ。こころのケア活動を行いました。



6月29日～7月9日にかけて台風7号と梅雨前線の影響により西日本を中心に記録的な大雨となりました。この豪雨から1ヶ月経過したところで、特に被害が大きかった広島県呉市へ高山赤十字病院こころのケア班が支援活動に向かいました。(活動期間:8月5日～11日)

広島県呉市は各地で土砂災害に見舞われ、高速道路、JRが寸断し、一時周辺自治体から孤立状態となりました。それにより、断水や生活物資の不

足など、住民の生活に多大な影響をもたらしました。私達の派遣の目的は、被災地での「こころのケア」の実施でした。こころのケアとは、避難所や地域を巡回しながら、被災された方の健康や身近な悩みなどを聞き支援すると共に、ストレスや対処法などについて話し、安心感・安全感を築くことです。

すでに1ヶ月経過していた現地は、電気、ガス、水道は復旧されており、物資も充足していましたが、依然として民家に土砂が堆積している場所を多

く見かけました。

避難所では被災された方の体験などに耳を傾けてストレスを溜め込んでいないかなど、聞いてまわりました。中には「もう元の場所には住みたくない」とその時の状況をフラッシュバックする方や「まさか、自分は大丈夫だろうと思っていた」と語っていただく方もみました。また、市役所職員など支援者も被災されています。災害対応に追われ、十分休みも取れない方に対して、リラクゼーションやハンドマッサージを行いました。被災地のすべての方に支援が必要であると感じました。

被災地が日常を取り戻しますように、また、被災地で生活する方が健康な日々を送り続けられることを願っています。



ふれあい看護体験

「ふれあい看護体験」は看護の仕事をみんなに知つてもらうためのイベントで、当院では、5月と8月に高校生

を対象に開催しています。

8月は2日と3日の両日、それぞれ20名以上の参加があり、体拭きなどの

清潔ケアや、食事介助などを看護師と一緒に体験してもらいました。また、午後からは車椅子やストレッチャーの乗車体験、手指

衛生の実践を行いました。

8月2日には、西日本豪雨災害の被災地に派遣されるこころのケア班と、国際救援活動に参加する医師の出発式に参加し、赤十字の活動を知つもらう機会となりました。

「看護はとてもやりがいのある仕事だと思った。」「看護師を目指したいと思う気持ちが強くなった。」などの意見が聞かれ、生徒さんにとって有意義なものになったと思います。

はなさと夏祭り



「心を繋ごう!輪ッショイ!はなさと!」のスローガンのもと、8月4日に第21回はなさと夏祭りを開催いたしました。当日は職員も浴衣に着替え、夏祭りムードが高まる中、夕方5時30分「舟山太鼓保存会」の皆様による迫力ある演奏で幕開けとなりました。続いて「ウイフラホアロハ」の皆様による優雅

な南国ムード漂うフラダンスに酔いしれました。また、今年は初の試みでもあります縁日も行いました。

年1回開催されるわずか1時間30分の祭りですが、夏祭りの目的は利用者さんとご家族の方々が一緒に過ごし、楽しんでいただくことです。今年も、利用者さんとご家族の方の笑顔を

沢山見る事ができ嬉しく、喜びを感じると共に今後の励みにもなりました。

多くのボランティアの方々のご協力をいただき、夏祭りを無事終了できたことに感謝いたします。ありがとうございました。



栄養課おすすめ! 簡単レシピ

ひき肉と夏野菜のカレー蒸し煮（一人分352kcal）

材料(2人分)

- | | | | |
|----------|-------|----------|---------------|
| ●豚ひき肉 | 120 g | ●おろししょうが | 1片分 |
| ●オクラ | 5本 | ●サラダ油 | 大さじ2 |
| ●かぼちゃ | 1/8個 | ●カレー粉 | 大さじ1 (2回に分けて) |
| ●おろしにんにく | 1片分 | ●塩 | 小さじ3/4 |



作り方

- ①オクラはガクをぐるりとむき、斜め半分に切る。かぼちゃは2cm角に切る。
- ②フライパンに油大さじ2を中火で熱し、にんにく、しょうが、ひき肉を入れて、肉の色が変わらるまで炒める。
- ③にカレー粉大さじ1/2、塩小さじ3/4、水1/4カップを加えて蓋をし、弱めの中火で約7分蒸し煮にする。
- ④カレー粉大さじ1/2を加えて、さつと混ぜ合わせる。

新任医師の紹介



麻酔科

山田 裕子 (やまだ ゆうこ)

8月より着任いたしました山田裕子と申します。

至らぬ点もあるとは思いますが、飛騨地域の患者様に安全な麻酔を提供できるよう努力していこうと思います。どうぞよろしくお願ひします。

お知らせ



高山赤十字病院
がん相談支援センター
☎0577-32-1111 (代表)
(内線 1203) 原則予約制

がんに関する情報、
お悩み、不安など
気軽にご相談下さい。

お気軽にご相談(無料)ください。

- がんの治療・検査・身体症状・気持ちのつらさ
- 医師とのコミュニケーション・家族の不安
- 治療と仕事の両立について
- 副作用対策について
- セカンドオピニオンや治療の場の選択

高山赤十字病院は地域がん診療連携拠点病院です。

- 受付時間…平日／午前10時～午後3時
- 相談方法…まずはお電話ください

がん相談支援センターは1病棟2階
総合相談窓口内にあります。



外来のご案内

診療受付時間 午前8:30から午前11:00まで

診療開始時間 午前9:00

休 診 日 土曜、日曜、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)、
日本赤十字社創立記念日(5月1日)

* ただし、救急の場合は24時間対応しております。

●電話予約センター ☎0120-214-489 受付時間：午前8:30から午後4:00まで
※ただし初診の電話予約には紹介状が必要です。紹介状のない方は、当日受付窓口へお越し下さい。

初診の方 診察申込票に必要事項をご記入
の上保険証、紹介状等を添えて
新患者受付へお出し下さい。

予約の方 予約票の時間にしたがって直接
受診科へお越し下さい。

受診の際は必ず保険証のご提示をお願いします。

「わらび会」入会のご案内

高山赤十字病院は、昭和60年12月に糖尿病患者さんの患者会「わらび会」を発足しました。

患者さんの糖尿病の治療・予防に対する知識の普及と、福祉の増進・相互の親睦を図ることを目的に活動しています。

●活 動：患者会総会、小旅行、語る会、親睦会、調理講習会、講演会
(活動時は当院の医師、看護師、栄養士が参加します。)

●会 費：年間3,000円(糖尿病情報誌「さかえ」購読料含む)

なお、会員は当院通院中の患者さんに限られていただいております。入会の申し込みや詳しく聞いてみたいと思われる方は、健康相談室のスタッフにお問い合わせ下さい。

日赤たいむ

日本赤十字社

平成30年秋号

発 行：高山赤十字病院 岐阜県高山市天満町3-11

発行責任者：広報委員会

TEL/0577-32-1111(代) FAX/0577-34-4155

URL : <http://www.takayama.jrc.or.jp/>